



営農NEWS



ピーマン育苗中の病害虫管理を徹底しましょう

ピーマンの半促成栽培では、播種から病害虫の管理作業が始まります。この育苗期間中に病害や害虫が潜在発生して、そのまま本圃に定植しますと、その後に病害虫の発生が増加し、生育障害や大きな減収を招く場合があります。

近年は、うどんこ病が春先から本圃で多発生する傾向があり、また、年次によりアザミウマ類が多発生しますが、これらも、育苗中に潜在発生していた苗を知らずに本圃に定植した可能性が高く、その感染株が本圃での多発生を招いている原因の一つと推察されます。特に、天敵昆虫を導入する圃場においては、本圃での散布が制限されますので、育苗期間のうちに病害虫防除を徹底する必要があります。また、アザミウマ類は黄化えそ病（通称：のうてん病）を媒介しますので、これらの動向には特に十分な注意が必要となります。

このため、育苗中の病害虫発生には常に観察を注意して行い、事前の予防や早期発見、早期防除を行ってください。

なお、購入苗においても、定植するまでの観察や管理、事前の防除を徹底しましょう。病害虫発生のない強健なピーマン苗を定植することで、その後の栽培管理を安定させ、高品質で高収量な生産を行うよう努めてください。

【育苗における病害虫防除のポイント】

- 1 育苗場所は、前作において病害虫の被害が発生していない場所とし、事前に清掃や消毒を済ませておきます。また、育苗期間中は出来るだけ清潔を保つように努め、ハウス内外の除草を常に徹底しておきましょう。
- 2 育苗ハウスの側窓や天窓など開口部には、防虫ネットを張っておきます。さらに、ハウス内に黄色や青色の粘着シートを設置すると、微小害虫が誘惑されて生息密度を抑制し、また、防除時期の目安になります。
- 3 育苗培土やポットなど資材等は、無病のものか消毒したものを使用します。
- 4 育苗中は適度なかん水に努め、過湿、過乾燥にならないようにします。また、生育に応じてポットのずらしを行い、通風、採光を良好に保って健苗な株を育てます。
- 5 育苗中は病害虫の発生を常に注意深く観察し、確認したときは早急に防除を行ってください。この場合、対象病害虫に登録のある薬剤を選択しますが、散布後には必ず防除効果を確認して、耐性菌や抵抗性の疑い、散布方法の改善など、次の防除の参考にしてください。
- 6 育苗中に生育不良や病害虫の発生したものは、早期に育苗ハウスから持ち出してビニール袋内などで腐熟させるなど適切に処分し、決して本圃には持ち込まないようにしましょう。
- 7 育苗期間中は、必要のない植物等の持込を避けましょう。市販の観賞植物や鉢物などは、病害虫と一緒に持ち込む危険を潜めています。

表1 ピーマン うどんこ病の主な防除薬剤（平成 26 年 12 月 8 日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
モレスタン水和剤	(キノキサリン)	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
パンチョ T F 顆粒水和剤	(EBI + アミドキシム)	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ラリー水和剤	(EBI)	4,000~6,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
アフェットフロアブル	(アニライド)	2,000~4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
カスミンボルドー	(抗生物質 + 無機銅)	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
ダコニール 1000	(有機塩素)	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ジーファイン水和剤	(炭酸水素塩 + 無機銅)	750~1,000 倍	収穫前日まで / -

注) 1. 表 1 および表 2 の薬剤が天敵昆虫に与える影響については、各種の天敵昆虫により異なりますので、メーカーや関係機関から必ず指導を受けてください。

※ 表 1 の他に、硫黄粒剤のくん煙処理があります。この場合には専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。

表 2 ピーマン アザミウマ類の主な防除薬剤（平成 26 年 12 月 8 日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	登録の対象害虫名
スピノエース顆粒水和剤	(スピノシン)	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	アザミウマ類
スタークル顆粒水溶剤	(ネオニコチノイド)	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	アザミウマ類
モスピラン顆粒水溶剤	(ネオニコチノイド)	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	アザミウマ類
プレオフロアブル	(-)	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	ミナミキイロアザミウマ
コテツフロアブル	(-)	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	ミナミキイロアザミウマ、 ミカンキイロアザミウマ
ハチハチ乳剤	(-)	1,000~2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	アザミウマ類

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040